

薬物の腎排泄に対する尿毒症物質の影響に関する研究

| | |
|--------|---|
| 著者 | 市村 祐一 |
| 学位名 | 博士（薬学） |
| 学位授与機関 | 北海道医療大学 |
| 学位授与年度 | 平成28年度 |
| 学位授与番号 | 30110乙第113号 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1145/00064488/ |

平成 29 年 2 月 24 日

学位論文審査、最終試験並びに学力の確認結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査： 小 林 道 也



副 査： 平 野 剛



副 査： 吉 村 昭 毅



副 査： 齊 藤 浩 司



このたび市村 祐一にかかわる学位論文審査、最終試験並びに学力の確認を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

薬物の腎排泄に対する尿毒症物質の影響に関する研究

2. 論文要旨 (別添)

3. 学位論文審査の要旨

現在、日本には約 32 万人の血液透析患者がおり、その予備群である慢性腎臓病患者は 1330 万人いるといわれている。透析患者では血中にインドキシル硫酸 (IS) 等の尿毒症物質 (UTs) が蓄積することが知られており、患者の薬物動態に UTs がどのような影響を与えるかは不明である。本研究はこのような背景のもと、透析患者における UTs の血中濃度測定、薬物のアルブミン結合に対する UTs の影響を明らかにし、ラットにおける薬物腎排泄に対する UTs の影響を検討した。

その結果、UTs の透析除去率は種類によって大きな差のあること、IS の血中濃度は患者の eGFR 値等からある程度予測することが可能であることを見出した。また IS は、プラバスタチンのアルブミン結合を阻害することを明らかにした。さらに UTs は、ラット腎において薬物の尿細管分泌に関わる様々なトランスポーターを阻害することを明らかにし、その基質となる薬物の尿中排泄に影響を及ぼす可能性を示唆した。これらの新たな知見を見出した点は高く評価でき、また適切な考察が行われていることから、博士 (薬学) の学位を認定しうるものであると判断される。

4. 最終試験 (学力の確認) の要旨

博士論文研究発表会における発表内容、発表態度、質疑応答、さらに口頭試問における質疑応答も適切であったことから、博士 (薬学) の学位取得に十分な学力を有するものと認められる。

以上の結果 市村 祐一 は博士 (薬学) の学位を授与する資格の ある ものと判定する。

ある

~~ない~~

以上